

第11回

ストック時代の住まいと

特別講演

ストック住宅の維持管理と改修から考えるスマートウェルネス住宅

芝浦工業大学工学部建築工学科教授 秋元 孝之氏



国内の住宅リフォーム市場をみると、2010年から拡大が続いており、今後も継続的な拡大が予測されます。13年の国内住宅ストック数5197万戸のうち6割近くを二重と三重建てが占めます。築後20・30年を経過した集合住宅リフォームも増加しています。優良な社会ストックの形成と中古住宅の流通市場の活性化が必要になります。新築だけでなく住宅を改修リニューアルし上手に使うことが必要になります。

スマートウェルネス住宅研究があり、私もその一環として活動を進めています。その成果の一部を紹介いたします。エネルギーに関しては、住宅の省エネ基準が変ったことで、1次エネルギー消費量で性能を評価することが決まっています。省エネ基準が求められるようになっています。また、省エネ基準が求められるようになっています。また、省エネ基準が求められるようになっています。

英国の例では、当初は室温の最低推奨値を21℃にする目標を設定していましたが、許容範囲は夜間の最低推奨値を18℃としていました。昨年度では室温の最低推奨値を21℃にする目標を設定していましたが、許容範囲は夜間の最低推奨値を18℃としていました。

水回りの暖房で健康指標を改善 冬の1~2月の平均的な最低気温は5℃程度です。室温を21℃にする目標を設定していましたが、許容範囲は夜間の最低推奨値を18℃としていました。

省エネは可能 15年7月決定された長期エネルギー需給見通しで、電力・ガス事業の規制緩和に伴い、サービス競争がエネルギー消費増大を招かないか懸念もああります。需要が減少する家庭でエネルギー事業のあり方を考える必要があります。

所得が減っても光熱費支出は増加 家庭用エネルギー消費の減少傾向は2000年頃から始まっています。一方、光熱費の支出は増加傾向にあります。これは、省エネが進んでいないことが原因です。

ストック時代の「暮らしとエネルギー」を考える

住環境計画研究所 代表取締役会長 中上 英俊氏

視点が必要になります。中古住宅が流通しおられるIOTという用語は、われわれには馴染みがないので、IOTという言葉を使っています。IOTという言葉は、IoTという言葉と似ていますが、IoTはモノとモノが繋がるのイメージで、IOTはモノと人が繋がるイメージです。

閉会あいさつ 日本ガス石油機器工業会 会長 國井 総一郎氏

進まない断熱リフォーム リフォーム別市場をみると、水回り、内装、設備などが増えていますが、省エネ・環境関連の設備では、太陽光発電、高効率給湯器などを導入するリフォームも増えています。一方で、断熱リフォームは十分進んでいないのが現状です。

家を建てる場合、快適性を向上させたい。省エネ基準や省エネ率を向上させるには、断熱性能を向上させることが重要です。断熱性能を向上させるには、断熱材を敷き、気密性を高めることが必要です。

米国の中古住宅を評価するシステムが真鍮氏の講演では、ストックをどうするかは非常に重要な話がありました。米国の人口は日本の約3倍、住宅の流通は数百倍あります。日本は住宅の流通量は10万戸未満です。日本は中古市場で集合住宅だけが流通し、戸建住宅は流通していないので、これだけ開きがあるように感じます。

省エネは可能 15年7月決定された長期エネルギー需給見通しで、電力・ガス事業の規制緩和に伴い、サービス競争がエネルギー消費増大を招かないか懸念もああります。需要が減少する家庭でエネルギー事業のあり方を考える必要があります。

閉会あいさつ 日本ガス石油機器工業会 会長 國井 総一郎氏

13 特集 2016年(平成28年)7月18日 ガスエネルギー新聞 (第三種郵便物認可) (毎週月曜日発行・週刊)



